



学校教育目標 広い視野と豊かな心を持った、健康でたくましい生徒の育成

# 東中だより

## 圓 困 目 標

- ・健康でたくましい生徒
- ・人の心の痛みが分かり、思いやりのある生徒
- ・進んで学び、感動できる生徒
- ・規律を守り、責任を果たす生徒
- ・厳しさに耐え、自ら努力する生徒

## 生徒の話し合いを通して思う。

5月25日(木)に生徒総会が行われました。生徒たちが自治的に学校づくりを進めて行く上で重要な話し合いになります。



生徒会役員が協議して作成した学校づくりの原案を事前に各学級で討議し、総会に臨みました。また各部活動や各専門委員会も事前に年間の活動方針や計画を協議し、全校に提案を行いました。



生徒たちが、グループや全体での討議などを通して、最終的に学校づくりの方針を決定しました。それは、「つくる」「つたえる」「つなげる」の3つのキーワードと

「ループ」という言葉で考える学校づくりの方針です。意味は次のようなものです。

【人としてあたり前のことを「つくり」あげ、仲間同士の想いを「つたえ」、部活動や委員会活動も含めてお互いを「つなげる」ようにして、それが循環するように「ループ」していけば、よりよい東桂中学校をつくっていただけるだろう。】

具体的には、次のように、日常生活を含め学校生活の質を上げていくことを目指し、取組や活動の提案がありました。

○授業や挨拶などの基本的なあたり前のことも常に振り返り、学校生活の基盤をつくる取組

○タブレットを活用した意見ボックス、合唱、自分のことをより知ってもらうためのアピールカードを活用した伝え合う活動

○持続可能な社会づくりに向けた各委員会で共通して行うSDGsの取組や各部活動で協力して行う下校時刻厳守の取組のような、つながりあって取り組む活動

生徒たちはこれらの事柄を全校生徒で討議し、目指す学校づくりについて共通理解を図るようにしていました。

生徒総会開催においては、全校のリーダー集団となる生徒会役員が事前の準備から当日の運営まで、力を尽くしてくれました。自分たちのなすべきことを



高いレベルで自覚しているリーダー集団です。これからも在籍するすべての生徒の幸せのため、着実に仕事をしていって欲しいと思います。そして、そのことが最終的には自分の人間的成長につながり、最後に最も得をするのは自分であると考えて取り組んでいって欲しいと願っています。

次のメンバーが全校を支える生徒会役員です。東桂中学校をよろしく願います！

### ※敬称略

生徒会長	高部莉愛	専門局長	渡邊啓我
副会長	鈴木羅夢	専門局次長	槇野ちひな
副会長	本田涼音	部活動局長	木村浩也
副会長	清水悠生	部活動局次長	堀内鈴愛
事務局長	武井優絵	書記(兼任)	滝口光織
議長	滝口光織	書記(兼任)	関戸衣桜
議長	関戸衣桜	書記(兼任)	槇野ちひな
		書記(兼任)	堀内鈴愛

### ■生徒会スローガン

「縁躍(ループ)」

- ・活動の柱1【つくる】
- ・活動の柱2【つたえる】
- ・活動の柱3【つなげる】

## 2学年総会

6月16日(金)、2学年で、どのような学年をつくっていくかについての学年総会が行われました。川口学年主任に声をかけていただき、校長の私も総会の様子を参

観することになりました。実は12日にも熱心な話し合いが行われたとのことですが、今回の話し合いを含めて全3時間をかけての話し合いになったとのこと。

話し合いの様子を見てまず思ったことは、参加者が自分の考えをオープンに話すことができている、ということでした。このときは、特に、授業について教師ばかりでなく、自分たちがどのように主体的に取り組んでいくのか、そのためには毎時間の自分たちの授業の様子を振り返る授業評価の観点(授業開始の挨拶や授業に参加する態度など)はどのような観点到すればよいのかを話し合っていました。学年の生徒全員が同じ方向を向き、一人一人の意見に耳を傾けていました。



このような話し合いは、生徒同士の関係性が良好になっていなければ実現できないものです。何か発言したら陰口を言われるのではないかと心配になったり、発言したことで何か攻撃を受けるかもしれないと心配になったりするような、人間関係に問題のある集団の中では安心して発言などできません。ですから、このような話し合いができる姿は、全体的には人間関係が良好に広がり深まってきている学年集団であることを示唆しています。このような様子を目の当たりにして、3年生になったときに楽しみになりました。

生徒たちの話し合いが終わったときに講評を求められましたので、まず生徒たちに伝えたのは上記のことでした。お互いが努力して関係性のよい学年をつくることのできていること、そのような様子は最高学年の3年生になったときを楽しみに思わせてくれるということを講評として伝えました。

そして、授業についての話し合いをしていましたので、講評の中で、「授業とはどのような意味を持つものなのか」ということについて、生徒たちと考えてみました。「何のために学ぶのか?」と生徒に問うたところ、すぐ反応をしてきました。素晴らしい学年です。その反応の中の一つに、「受検のため」というものがありました。そこで答えました。「そうだね。自分の人生にとって進学が必要だと考えている人にとっては、受検は必ず必要だから勉強しないとイケないね。それも一つの学ぶことの意味だと思います。」その後、さらに問いました。「皆さんは何歳まで生きますか?」そうしたら、またすぐ反応が返ってきます。その中の一つは「100歳!」というものでした。「そうだね。今は人生100年時代と呼ばれているね。だから、学ぶということを人生の100年単位

で考えて欲しいんです。」と答えました。「例えば、皆さんが何か製造する仕事に就きたいと思ったとき、中学校の教科でそれに関係する教科は何ですか?」と聞くと「技術科!」と返ってきました。「理科!」という反応もありました。「そうだね。数学だって必要だね。」と伝えました。「じゃあ、何か人と一緒にやろうと思ったときにはどんな教科が関係しますか?」と聞くと、「国語!」と返ってきました。「そうだね。言葉は人と人がコミュニケーションするときには大切なものだね。だから英語も同じように考えることができます。」と話しました。「このように、学校で学ぶ教科というのは、人間の人生の中で繋がりにあるものなんです。ですから、学ぶということは、今の時代は人生100年単位で考えて欲しい事柄なんです。100年という人生の時間の中で学ぶということの意味を考えていきましょう。」というような内容の話で締めくくりました。

**「学ぶ」ということを人生や社会との関わりで捉えるような支援や指導をお願いします。**

これまで述べたような観点で「学ぶ」ということを捉えた場合、例えば、社会の問題集で「日本は( )年に終戦を迎えました」の空欄に穴埋めができるだけでは不足だということになります。ヨーロッパでの2つの世界大戦、日本が経験した日清・日露戦争、そして先の大戦といった日本史や世界史の大きな流れの中で現在勃発しているヨーロッパの戦争を眺めたとき、どのようにそれを解釈し、日本や世界はどのようにしていくことが必要なのか、現在と将来の自分の生活にはどのような影響を与えることになるのかなどを考えられる力が必要になります。SNSやゲームを楽しんでいても、それに埋もれて楽しんでいるだけでなく、現在と将来の自分の生活にはどのような影響を与えることになるのかなど、そのようなテクノロジーを生かして、今後はどのような世の中を創っていきける可能性があるのか、といったことを考えることのできる力が重要だということになります。事実、日本の子供は、携帯電話の使用やゲームを楽しむことにおいては世界トップクラスですが、情報を何でも得ることのできる携帯電話を「学び」のために使おうとしない、という国際的な結果も出ています。

親子で同じニュースやテレビ番組などを見ている場面でも、時には、その内容についてどう思うかといったことを子供と話してみるのもよいのかもしれません。

学校その他の教育機関でもペーパーテストはいろいろところで実施されています。しかし、ペーパーテストで測れる学力は、人間の総合力からするとごく一部の力であるということを理解して、子供たちを育てていきたいものだと思います。